

# ステレオスコープ表示

## 構成：

- 林業で広く使われている F-71 ミラーステレオスコープ (反射式実体鏡) (~ US \$800)
- 23 インチフラットパネルモニタ 解像度 1920 × 1200 (~ US \$2000)  
(同様のモデルは Apple、HP、Sony 製品にあります)
- Apple G5 PowerMac デュアルプロセッサ または 使用中の TNT 用 PC とディスプレイボード



## 特徴：

左の図では、昔から使われているステレオスコープを使って、水平に置いた 1 組の航空写真を立体的に見ています。この方法だとプリントした写真をテーブル上で動かして立体的に見える場所を探す必要があります。TNT 製品を右図のように使うと、一組のステレオ画像が立体視用に自動的に適切な位置に表示されます。ステレオスコープを動かす必要はありません。2 枚の航空写真が固定されたステレオスコープ下のモニタに並べて表示され、マウスを使って動かすことができます。

サンプルの TNT 構成ではモニタのスタンドを外して、モニタよりも一回り大きなプラスチック製の台の上に置かれています。写真ではよく分かりませんが、台には 30 度くらいの傾きがあります。これは大型モニタで TNT の地図や画像を扱うとき、特に矯正用の遠近両用眼鏡を使っている人には便利な方法かもしれません。いつでもこの台にステレオスコープを取り付けられます。前にのり出せばステレオスコープを通してステレオ画像が見れますし、体を戻せばモニタを通常の作業に使うことができます。水平に置いて見るよりも背中への負担が少なくて済みます。

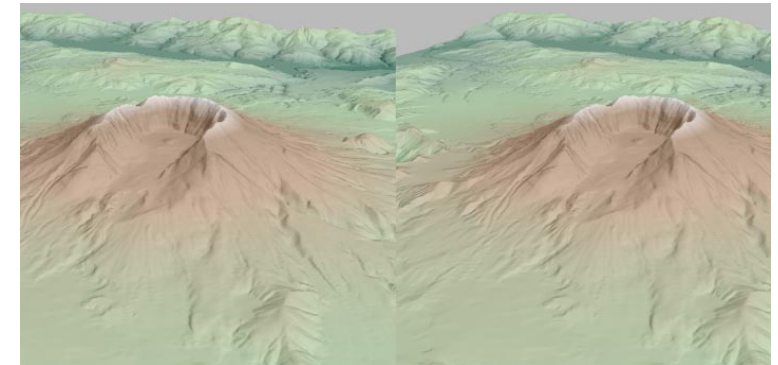
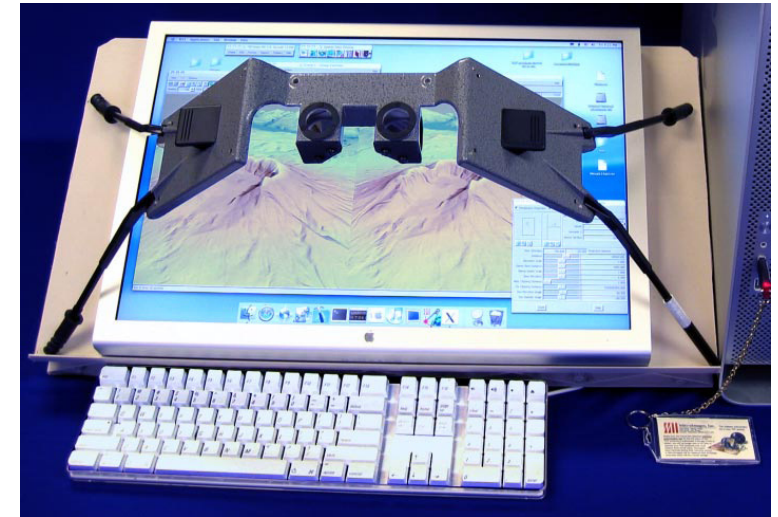
台はモニタとステレオスコープがずれ落ちないように手前の縁が上がっています。鏡の上に取手が付いており、ステレオスコープを台にセットしたり外したりする際に便利です。モニタ背面のコネクタとケーブルは、台の穴を通して接続します。

## 長所：

- 安定した実体視が可能
- 何も移動せずに 1024 × 768 ピクセルの領域ほぼ全域でステレオ表示が可能
- 1 台のモニタで可能
- 反射光ではないのでプリント写真を使うより明るさや色調の変化がありません (他の立体表示機器では、偏光フィルタや液晶シャッターを使うため、立体表示画像に影響を与えます)。
- 眼精疲労の軽減。目への負担はプリント写真を使用した時と変わりません (他の多くの立体表示機器では、疲労だけではなく、すぐに眼精疲労を引き起こします)。

## 短所：

- 高コスト (~ US \$3000)
- 一度に使用できるのは 1 ユーザのみ (複数出力を持つディスプレイボードを追加すれば複数のモニタに映し出せます)



高解像度のオルソ (正射) 画像およびデジタル標高モデルは現在広く入手可能です。TNTmips や TNTedit、TNTview で高品質なステレオ表示が可能であり、2 次元や 3 次元での鳥瞰図表示のパワーを増強します。ステレオ表示は、直接フィールド調査を行うには費用や時間がかかたり危険を伴う場合に、地上の状態や特徴を調べ図化するのに効果的です。ステレオ表示はまた、地表面とその下の構造の 3 次元的空間関係を明らかにするのに効果的です。ステレオ表示は TNTmips および TNTedit の空間エディタで利用でき、2D ウィンドウでの地理データの編集作業をアシストします。